

2026年1月26日 PMAC2026(バンコク)においてサイドイベントを開催しました。

2026年1月、バンコクで開催されたPMAC(Prince Mahidol Award Conference)2026において、当院とJICAの共催によるサイドイベントを開催しました。「社会的価値を通じて保健医療システムを再構想する～人口構造の転換期における、包摂的で持続可能なUHCへの道～」をテーマに、人口高齢化と格差で逼迫する世界の保健医療に対し、日本のUHC経験とIPCCHS(Integrated people centered Health Care)の視点から、社会的価値にもとづく持続可能で公平な制度構築について議論が行われました。

冒頭、当院の浅沼一成院長、厚生労働省山口高志国際課長、WHO-WPROよりDirector Mr Lluís Vinals Torresより開会挨拶があり、10名の専門家より話題提供があり、シンポジウム及びグループワークを通じて参加者との双方向のディスカッションが行われました。



詳細の活動報告は以下の通りです・

PMAC(Prince Mahidol Award Conference)サイドイベントの開催について

■ PMACの設立の背景・経緯・目的

PMAC(Prince Mahidol Award Conference)は、タイ王国が主催する国際保健分野のハイレベル会議で、2007年に初開催。1992年に創設されたプリンス・マヒドン賞の理念を継承し、世界的な健康課題への対応強化と、政策決定者・研究者・実務者の連携促進を目的としている。PMACは、エビデンスに基づく政策形成を支援し、持続可能な保健システムの構築を目指す場として、毎年開催しており、本会合に加え、協力機関が主催するサイドイベントが多数開催され、研究報告の場として口述及びポスターセッションも行われる。

■ PMAC 2006 年の開催概要

PMAC 2026 は「人口動態のグローバルな変化に対応する革新的政策：公平性中心のアプローチ」をテーマに、2026 年 1 月 26～31 日にバンコクで開催される。高齢化、少子化、都市化、移民などの人口構造の変化が健康格差や制度の脆弱性と交差する中、ライフコース政策を通じて持続可能な社会を目指している。3 つのサブテーマ「人口と社会的公平性」、「保健システムの変革」、「地政学と地球の健康」を軸に、政策提言と国際協力を促進する。

■ PMAC2026 サイドイベントの開催

日本は JICA が PMAC の共催者として、毎年サイドイベントを開催している。2026 年は、JICA とのコラボ企画として NIPH の提案が採択され実施の運びとなった。シンポジウム形式で、各演者からの講演とパネルディスカッション及びグループディスカッションで構成する。

.....

タイトル：「社会的価値を通じて保健医療システムを再構想する

～人口構造の転換期における、包摂的で持続可能な UHC への道～」

開催日時：2026 年 1 月 26 日 14:00-17:30

開催場所：Centara Grand and BCC at CentralWorld, Bangkok, Thailand

参加人数：30名程度

■ 趣旨

世界の保健医療システムは、人口動態の変化や高齢化の進行、格差拡大によって深刻な負荷に直面している。1960 年代に UHC を達成し、現在は超高齢社会の課題に向き合う日本の経験は、医療へのアクセス拡大にとどまらず、健康を公共財として位置づけ、社会的価値を政策に組み込む重要性を示している。WHO が提唱する統合型・人間中心のヘルスサービス (IPCHS) は、こうした価値を具体的な制度やサービスに反映する鍵となる。本サイドイベントでは、UHC、社会的価値、IPCHS の相互関係を踏まえ、国際的な知識共有を通じて、価値の共創にもとづく持続可能で公平な保健医療システム構築の方策を議論する。

■ プログラム：

開会挨拶： ・ 国立保健医療科学院 浅沼一成 院長

ゲスト挨拶： ・ 厚生労働省 大臣官房国際課 山口高志 国際課長

・ WHO-WPRO Director, Division of Health Systems and Services

Mr Lluís Vinals Torres

1. 講演(パート1)

① 持続可能な UHC: 予防と健康増進を保険制度に統合し、社会における健康の価値を高める

登壇者：五十嵐久美子(統括研究官・国立保健医療科学院)

② 日本の保健医療システムの移行：1960 年代の UHC 達成から現在の超高齢社会までの社会的価値に基づく視点

登壇者：小野太一(教授・政策研究大学院大学)

③ アジアにおける人口動態の変化を踏まえた保健医療システムの進化：

社会的価値に着目した持続可能で包摂的な UHC に向けて

事例(マレーシア):ラヒマ・イブラヒム(マレーシア・プトラ大学 My Ageing 所長)

事例(スリランカ):シロミ・マドゥワゲ(スリランカ保健省 公衆衛生専門官)

事例(ミャンマー):菖蒲川 由郷(特任教授・新潟大学医歯学総合研究科)

## 2. パネルディスカッション

モデレーター: Dr. Kalipso Chalkidou, WHO HQ

- ・ 高齢化の進展(シルバーウェーブ)への対応においてマルチセクターアプローチは有用で、Community Empowerment・公平性・医療から Wellness への変革を国家計画に位置付ける
- ・ ソーシャルサポートは、高齢者の死亡リスクを低減する保護因子であり、健康な高齢化を支える重要な要素であり、医療システムに対しても、需要の抑制や効率化という形で影響する
- ・ 人中心のケアの実現には、医療従事者・住民・自治体が対等なパートナーとして、「自立」と「社会的連帯」という共通価値のもとに、制度的に支えられた協働関係の構築が重要

## 3. 講演(パート2)

- ④ 官民連携の視点を取り入れたデジタルツールの活用による、誰一人取り残さない包摂的かつ包括的な保健医療の推進
  - ・ Dr Viviane Oke, Founder, ELLES App, Benin
- ⑤ 2030 年以降の新たな UHC 指標の視点:国別指標開発の有効性評価と UHC 達成の加速
  - ・ 大澤絵里(公衆衛生政策研究部上席主任研究官・国立保健医療科学院)
  - ・ 此村恵子(保健医療経済評価研究センター主任研究官・国立保健医療科学院)
- ⑥ 持続可能なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)達成に向けたレジリエントな保健医療システムの構築:気候変動時代における人々の健康の保護
  - ・ 本間義規(建築・施設管理研究部長・国立保健医療科学院)
  - ・ 下ノ蘭慧(建築・施設管理研究部研究員・国立保健医療科学院)

## 4. グループディスカッション

ファシリテーター:大澤絵里

- ・ 上記の講演をもとに、3 グループに分かれて、下記の点について、30 分程度のグループディスカッションを行った。
  - テーマ1 各国において、社会的価値の視点を重視しながら UHC を推進するにはどうすればよいか
  - テーマ2 人口動態の変化や気候変動といった UHC 達成の障壁を、革新的なアプローチを通じてどのように克服すればよいか。
- ・ グループディスカッションでは、ガバナンスレベルから、実践レベルの事項が挙げられた。
  - 各国の社会的価値の定義づけをして、誰が(UHC を推進するための)対象者となるのかを確認すること
  - 人権の保護をすすめること
  - インフォーマル・セクターとの統合
  - 政策の解釈と実践

- 一般市民の意識の向上、そのためのアドボカシーの必要性
- コミュニティレベルでの実践の強化。気候変動への暑熱対策などもコミュニティのレベルで実施。
- 気候変動や災害への対応の政策に、高齢者も含む
- デジタルデバイスは、デジタルトランスフォーメーションの重要性。例)高齢者の利用を高める。

## 5. 閉会挨拶 JICA 牧本小枝

### まとめ

#### ① 公平性を基盤とした UHC の再設計

- ・ ライフコースに基づく健康政策を導入し、出生から高齢期までの予防・健康増進を制度に統合
- ・ 公平性指標を含む新たな UHC 評価枠組みを策定し、各国の進捗をモニタリング

#### ② 高齢化社会における社会的価値の再定義

- ・ 高齢者を「負担」ではなく社会資源として位置づける政策を推進
- ・ 地域包括ケアモデルや高齢者の所得保障制度を構築し、高齢者の社会参加と健康維持を両立することで、持続可能な社会保障制度を確保する

#### ③ 誰一人取り残さないヘルスシステム推進のためのデジタルトランスフォーメーションと気候変動への対応の加速

- ・ DX により、保健情報やケアへのアクセスを向上させ、健康の自己管理能力が向上するしくみが Unmet health needs の解消に貢献する
- ・ 気候変動によって拡大する健康リスクに対しても、経済的困難を伴わずに対応できる体制を構築することが不可欠

(参考)

### Social Value and UHC in Health Policy



